

## タイのプミポン国王について

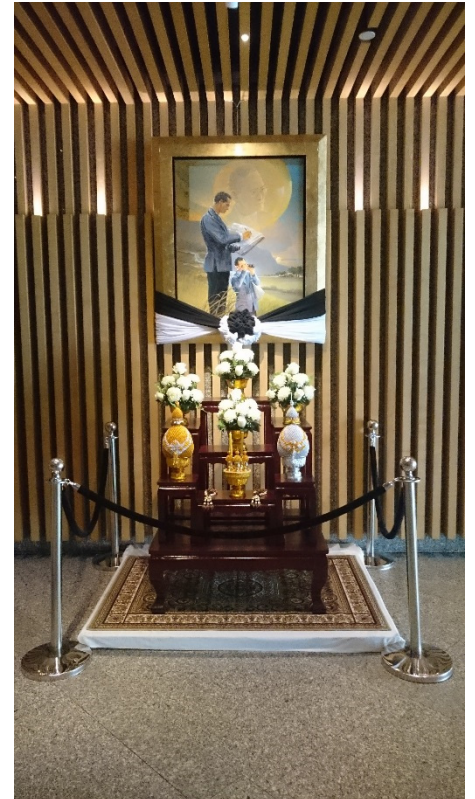
バンコック駐在員事務所

小沢 康正

サワディーカップ。今回は『タイのプミポン国王』についてレポート致します。

タイ国民から尊敬の念を一身に集めておられたプミポン・アドゥンヤデート国王陛下が昨年 10 月 13 日に崩御されて、当時の様子を 1 年前にレポートしました。今回は現状についてご紹介したいと思います。

プミポン国王は 70 年間に渡りタイを安定に導いてきたのと同時に、世界で最も長く在位したことで知られ、今もなお国民から絶大な支持と尊敬の念を集めておられます。バンコックに壮大な火葬式用建物が建設されましたが、当日に国民がバンコックへ集中することを避けるため、全国 76 県に一箇所ずつ別の火葬式用建物が建設されています。



筆者撮影

『有名デパートに設置された祭壇の前に集まって哀悼の意を表すタイ国民』 『当事務所が入居しているビルの祭壇』

プラウィット副首相は、10 月 26 日当日に王宮前広場だけでも約 25 万人の国民が詰め掛ける見込みで、7 万人の警備員を配置すると発表。運輸省は各運送会社に対し、10 月 23 日から 29 日の間は可能な限りトラック運行を控えて欲しい、との呼びかけを行いました。

宮内庁は葬儀のボランティアスタッフを 9 月 1 日から一般公募したところ、1 日 2,500 人の募集に対し初日の朝 8 時に定員に達し、9 月 25 日時点で応募者数は約 200 万人にのぼったと発表しました。

タイ政府観光局からは次のようなアナウンスがなされています『多くのタイ国民はこの時期、喪に服するために黒い衣装を着用しています。これは、旅行者の皆様には強制をするものではありませんが、公共の場ではできるだけ節度のある服をお召しになる事をおすすめします。また、火葬式は厳かな雰囲気の中で執り行われるべきものですので、不適切または侮辱的な言動はお控えください』。これだけタイ国民にとって特別な存在なのです。

もしもプミポン国王ご自身の国民に寄り添おうとする弛まぬ努力がなかったとするならば、これほど国王と王室に対する敬愛が育まれることはなかったのではないかと思います。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。